

北海道教育大学附属図書館

ISSN 1344-5081

図書館報

78号

平成19年3月22日発行

目 次

巻頭言	2
特集：学生に薦める1冊の本	3
新収ソフト一覧	9
教職員著作物受贈一覧	12
附属図書館からのお知らせ	16



巻頭言

石の図書館

附属図書館長 辻 井 義 昭

中国を旅する日本人は、北京、上海は言うに及ばずだが、古都西安（かつての長安）も必ずといっていいほど訪れる地である。なにしろ悠久の栄華を今に伝える処。奈良、京都という日本文化の源流の地として憧れる、ノスタルジックな街だ。

西安の名所のひとつ、碑林。南側の門から入って北へ進むと、ふっと視界がひらけて「碑林」の文字が目飛び込む。ここには、唐代の著名な書人の碑刻を中心に、青銅器から墓誌銘までが、時代も周・秦から明・清に至るまで石刻を中心とする名品約三千基が所狭しと立ち並ぶ。

第二室以降に、中国歴史上の名筆の膨大な石碑が、文字通り林立している。一般的には、書芸術の宝庫で、それゆえ「碑林」と称し、書道の巨大な博物館、資料館と認識されているが、もとはといえば、知の凝集した場所であった。

唐の第十四代文宗皇帝の太和七年（833）～開成二年（837）の間に、「周易」「尚書」「毛詩」「周礼」「儀礼」「礼記」「左氏春秋」「公羊春秋」「穀梁春秋」「孝経」「論語」「爾雅」の十二経を長安城内の国子監（大学）内に建てたもの（清の康熙三年（1664）に「孟子」が加えられ「十三経」となる）。世にいう「開成石経」である。大唐帝国も衰退の兆しをみせた元祐年間には、防衛上の理由で長安城を縮小、石経は城外に遺棄された形になり、再び、城内に移築されたりもしたが、中国のルネッサンスといわれる北宋時代（十世紀初頭）に至り、孔子廟大成殿のうしろに移し、中央にあの楊貴妃とのロマンス（？）で有名な第六代玄宗皇帝の筆になる高さ五メートル、一面の幅三メートルの四面巨碑「石台孝経」を置き、その背後を大きく取り囲むように「コ」の字型に、先の経書群を刻した壮大な中国古典の石の壁を配し、今に

残る形となった。碑林第一室である。

知の集成「石経」の起源は漢代にまで遡る。当時、伝わる経書には、秦始皇帝の焚書坑儒のみならず、時代に翻弄されて、伝写の誤りや諸説が多かった。そこで、五経の文言の異同、誤謬を学者達に校正させ定本を作成し、後漢末の霊帝の熹平四年（175）に、漢の官制文字「八分」（隸書体）でこれを書丹（石に朱で書く）させ、その文字を刻んだ刻石を洛陽の太学（大学）の門前に建てた。年号にちなんで「熹平石経」と呼ぶ。文字、学問の規範を知の殿堂の前に示したのだ。

魏の正始年間（240～248）には、いわゆる古文、小篆、八分の三書体で書き、国子監の門前に建立。「三体石経」と称し「正始石経」とも言い、やはり知と権威の象徴であったわけだ。

政変の折には、これらは当然のごとく破壊された。東京・根岸の台東区立書道博物館には、その断片がいくつか所蔵され、他の文物とともに展示されている。

閑話休題。これらを受け継ぐ碑林の第一室。科挙に挑戦する者をはじめ、学問する者は、この第一室に通いづめたに違いない。知の宝庫で、ここは石の図書館なのだ。

ところどころに黒々とした部分が目に付くが、これは書き写さずに紙をあて、拓を採った名残りである。どうやら試験の要諦の個所のよう。今様コピーだ。印刷の始まりとでもいおうか。

“平成”になった当初、「史記」の「内平らかに外成る」とともに、「地平らかに天成る」の典故「尚書」（「書経」）のその部分が目立つように黒ずんだ。多分、日本人旅行者が、ここだここだと刷りとったのだろう。勿論、イケナイこと…。今はガラスがはめられている。



学生に薦める1冊の本

『愛すること (The Art of Loving)』

(エーリッヒ・フロム著 紀伊國屋書店 1959, 1991[新訳版])

栗 野 正 紀
(札幌校・教育学)

本書は、出版されてから50年間読みつがれている、愛について真面目に論じた世界的ロングセラーである。本書の内容は、その専門にかかわらず新入生の皆さんに関心をもってもらえると思われるので、紹介を試みたい。

学生主宰の読書会において読まれることも多い本書は、次のような文章で始まる。「愛するという技術についての安易な教えを期待してこの本を読む人は、きっと失望するに違いない。そうした期待とはうらはらに、この本が言わんとするのは、愛というものは、その人の成熟の度合いに関わりなく誰もが簡単に浸れるような感情ではない、ということである。

この本は読者にこう訴える——自分の人格全体を発達させ、それが生産的な方向に向くよう、全力をあげて努力しないかぎり、人を愛そうとしても必ず失敗する。満足のゆくような愛を得るには、隣人を愛することができなければならないし、真の謙虚さ、勇気、信念、規律をそなえていなければならない。これらの特質がまれにしか見られない社会では、愛する能力を身につけることは容易ではない。実際、真に人を愛することのできる人をあなたは何人知っているだろうか。」

フロムは、愛とは孤独な人間が孤独を癒そうとする営みであり、愛こそが現実の社会生活の中で、より幸福に生きるための最高の技術であると言う。本書ではその愛の理論とその実践のための修練が説かれている。

フロムが言う愛の理論を多少なりとも感じてもらうため、本書より2、3引用してみる。

愛とは、支配や服従といった結合とは異なり、自分の全体性と個性を保ったままでの結合である

とフロムは言う。「愛によって、人は孤独感・孤立感を克服するが、依然として自分自身のままであり、自分の全体性を失わない。愛においては、二人が一人になり、しかも二人であり続けるという、パラドックスが起きる。」

また、愛の能動的性質を示すものとして、与えるという要素をフロムは指摘している。「与えることによって、かならず他人の中に何かが生まれ、その生まれたものは自分にはね返ってくる。ほんとうの意味で与えれば、かならず何かを受け取ることになるのだ。」与えることのできる生産的な段階に達した人は、「依存心、ナルシズム的な全能感、他人を利用しようとかなんでも貯めこもうという欲求をすでに克服し、自分のなかにある人間的な力を信じ、目標達成のためには自分の力に頼ろうという勇気を獲得している。」

フロムは、愛の理論とその実践のための修練を説いた後、本書の末尾付近で、目を社会へと転じている。「愛のことを真剣に考え、愛こそが、いかに生きるべきかという問題にたいする唯一の理にかなった答えである、と考えている人びとは、次のような結論に行き着くはずだ。すなわち、愛が、きわめて個人的で末梢的な現象ではなく、社会的な現象になるためには、現在の社会構造を根本から変えなければならない、と。」

愛を手がかりにして社会構造を分析することは、あるべき社会を考えるための1つの方法となるだろう。本書は、よりよく生きることを考える際の手引きであると同時に、社会科学の入門書でもあるように思われる。一読を勧めたい。

(あわのまさのり)



学生に薦める1冊の本

『^{しば}凍れるいのち』

(川嶋康男著 柏艚社 2006.12)

佐々木 馨
(函館校・歴史学)

「朝日新聞」は一九六三（昭和三八）年一月三日付で「旭岳（北海道大雪山）で遭難 二人死に八人絶望 北海道学芸大の山岳部」の見出しで大きく報じた。まさに、山岳事故史上、空前の大惨事である。この結果、北海道学芸大学函館分校（現在の北海道教育大学函館校）の十一名のパーティーのうち、十名が死亡し、一名が奇蹟的に生還したことを現代の私たちはどれほど周知しているだろうか。恐らく、その関係者を除けば、北海道教育大学の現学生はもとより、教職員の中でも「初耳」というひとが多いのではなかろうか。今から四十四年前のこととはいえ、十人の貴重な命を奪われた悲劇を忘却の彼方に押しやってはならない。

そんな矢先、この大惨事のなか、唯一、生還を果たした当時のリーダーの野呂幸司さんへの聞き取りをもとに、その悲劇の経緯を詳述した一書が公刊された。ノンフィクション作家川嶋康男の手になる表題の「凍れるいのち」がそれである。

世界最大級の冬山遭難を扱った「八甲田山死の彷徨」の著者・作家新田次郎の取材にも堅く口を閉ざして応じなかった野呂さんが、今回、川嶋さんに開襟をひらいたのは、十名への哀悼の思いをこめ、「生き抜くことが償い」となると決意したからだという。（「北海道新聞」二〇〇六年十一月十五日付「夕刊」）

「自分の失敗で死なせてしまった十人の仲間、その「黒い十字架」を背負って、おれは生きてきたんだ」としぼり出すように回想する悲劇が起きたのは、一九六三年十二月三十日の夜であった。十二月二十三日～一月四日の日程で「表大雪登山

合宿」を計画したA・B両班の十一名の一行は、三十日夜に吹き荒れた猛吹雪のため、雪洞の天井を吹き飛ばされて、全員真っ暗闇に放り出されたのが致命傷となった。

本著は、「いかに頑強な肉体の持ち主でも、両足をショパール関節から切断され、踵より残っていない足に義足を付けて歩くごちなさに歯がゆさを覚える」の書き出しに幕が開く（「序章」）。第一章の「小さな山男」と第二章の「(学大函館)山岳部」は、十一名のパーティーの紹介でもあり、本書の助走部分である。第三章の「冬の大雪合宿」は、パーティーの具体的な実践の足跡であり、これを受けて、運命との出会いが綴られる第四章「凍れるいのち」、第五章「たった一人の生還」、第六章「死の彷徨」がリアルに展開する。文字通り、本書の圧巻である。「野呂、おれはもうだめだ」「助かったらおふくろによろしく伝えてくれ」と言い残して死にいく人。「おかあさん！おかあさん……じょうじ、じょうじ」と母と弟の名前を最後に静かになる人。

そんな冷酷な「死」という厳しい現実を体験した者の「黒い十字架」を背負いながら生きた「その後」を辿ったのが、第七章の「償い」と第八章の「いのちを生きる」と「終章」である。「後記」の「野呂幸司の「いのち」の生き方を“元気の素”としていただければ」という作者の言葉は、命の軽視が呼ばれる現代日本への大きな警鐘でもある。本書の心読を推す理由も、実にその辺にある。

(ささきかおる・附属図書館函館館長)



学生に薦める1冊の本

『打ちのめされるようなすごい本』

(米原万里著 文藝春秋 2006.10)

永 田 信 也
(旭川校・国語学)

職業柄、読書も趣味の一つであるが、専門書ばかりでは息が詰まる。しかし、やみくもに乱読するのは、当たり外れも多いし、財政的にもたまらない。そんな時に助けられるのが、書評である。推薦するこの本は、帯に「全書評1995-2006 絶筆となった壮絶な闘病記（「私の読書日記」週刊文春）を収録した最初で最後の書評集。」とあるように、著者の書評全てを集めたものである。

書評というと、エライ先生がその内容を簡単にまとめ、感想めいたものを付け加えるというのが大方である。米原氏の書評は、これとは違って氏の持つ知識・感性をフルに動員して、その本の内容・著者と格闘するといった趣がある。故に誉めた書評もあれば、辛口な書評もある。そして対象とする書物を纏めるだけではないので、氏の知識・思想にも触れることができるのである。その意味では、単なる書評集ではない。

本書で取り上げられた本は、巻末の書名索引によれば、290冊に上る。氏がロシア語通訳の第一人者であったことから、東欧の歴史・政治・文学などに関するものも多いが、源氏物語など日本文学に関するもの、ブッシュや小泉純一郎（この二

人については揶揄したものが多くて笑える。）など国際政治に関するもの、犬・猫など動物に関するもの、ガンなど病気に関するもの、果てはアニメに関するものなどなど、実に多岐にわたり幅が広い。これらの書評を読むだけでも実に勉強になるが、これ！読んでみたいと思う本にもいくつも出会える。私は家でシーズー犬を2頭飼っているが、『犬語の話し方』だとか、『犬の科学』だとかを見れば、いやでも読みたくなってしまわないか。猫好きには猫に関する本も多い。氏は本当は猫好きらしい。

もし、無人島に一冊しか本を持っていけないとしたら、聖書よりは私はこの本を選ぶだろう。本の購入もままならない田舎に赴任することが多い、本学の学生諸君にぜひ薦めたい本である。

長い間「週刊文春」に載る氏の書評を楽しみにしていたのであるが、氏は2006年5月ガンで亡くなられてしまった。残念であり、寂しいことである。

(ながたしんや・附属図書館運営委員)





学生に薦める1冊の本

『風 土』

(和辻哲郎著 岩波書店 1935, 1943[新版], 1963[改版], 1979[文庫])

篠 木 芳 夫
(釧路校・哲学)

我が国で欧米の哲学・思想を研究対象とすると
いうことになる、どうしても片思いになってしま
います。我が国にも独創的な思想を展開した哲
学者はいないではありませんが、多くはありませ
ん。それは、欧米にはギリシア以来の思索の歴史
と伝統があり、その上に現代の思想が積み重ねら
れているからだと考えられます。しかし、日本で
も優れた学者は、欧米の思想を十分咀嚼して自家
薬籠中のものとし、批判的に吟味した上で独自の
視点から主題を展開しています。和辻はそういう
学者の一人であると思います。

和辻は本書の「序言」で、ドイツ留学中にハイ
デガーの『存在と時間』に出会ったことが本書執
筆の契機であったと述べています。二十世紀の哲
学の方角を決定づけてしまったと言われるこの本
で、ハイデガーは人間の主体的存在構造を時間性
として捉えました。しかし、和辻にすれば、同時
に空間性も人間の根源的な存在構造として活かさ
れるべきでした。こうして時間性と空間性が相即
したものであり、かつ社会性をもったものと考え
られているのが、和辻の「風土」なのです。

現代哲学の共通の課題は、「近代をいかにして
超えるか」ということです。ハイデガーは『存在
と時間』で人間を「現存在」と呼び、これが近代
的な「主観」とはまったく異なるものであること
を繰り返し強調しています。近代の思考の性格は
さまざまに言い表すことができますが、本書の表
題である「風土」について言えば、それ自体とし
て存在する自然環境がいかにして人間生活を規定
するかという具合に、一方通行の、自然科学的な
見方をするということです。例えば、われわれが寒さ
を感じるという場合、物理的客観としての寒気が、

われわれの感覚器官を刺激し、その結果として寒
さを経験するのだと考えられています。その時、
「寒気」も「われわれ」もそれ自身において存在
し、一方が他方に一方的に影響を及ぼし、他方は
ただ影響を被るのみという関係が成り立っている
と考えられます。

学生諸君も、このような近代的な思考に慣れて
しまっていて、これに疑問を抱くことがほとんど
ないのではないのでしょうか。しかし、この本で和
辻は、われわれは「寒さ」を感じる前に、寒気とい
うような独立の存在をどうしたら知ることがで
きるのだろうか、と問います。それは不可能だ。
われわれは寒さを感じることに於いて寒気を見出
すのだ。寒さの体験こそが根本的な事実なのであ
り、寒気の実在はそこから推理によって引き出さ
れてきたものにすぎない。このように、現象学が
わかりやすく語られています。現代の思想は、基
本的にはわれわれの意識に直接与えられているも
のを尊重しようという姿勢で貫かれています。「事
象そのものへ」を標榜する現象学もその一つです。

オギュスタン・ベルクは、風土を単なる自然現
象としてではなく、そこで生活する人間との相関
関係において、つまり生きられた自然として捉え
る和辻に触発されて、その風土論の中で「主体と
客体」、「自然と文化」といった近代的二元論を克
服しようとしています。和辻の『風土』は日本人
論としても、また「環境」を考えるうえでも、踏
まえておきたい視点を提供しています。古い本で
すが、これを現代思想入門として推薦する所以で
す。

(しのぎよしお・附属図書館釧路館長)



学生に薦める1冊の本

『北海道の漂着物 — ビーチコーミングガイド — 』

(鈴木明彦著 北海道教育大学海岸生物研究会 2006. 9)

能 條 歩

(岩見沢校・自然史研究室)

表題の書籍は、本校の地学研究室の鈴木氏がフィールドワークの成果をとりまとめたもので、北海道の海の様子や海洋汚染の姿などを如実に取るように知ることができるものとして、大変興味深い書籍である。「ビーチコーミング」という用語になじみのない方も多いかもしれないが、近年自然観察や体験学習の領域で盛んになってきているもので、簡単に言えば海岸を歩いて漂着物を集めるというもの。鈴木氏は数年前から自身の研究活動だけでなく、理科専攻生向けの野外実習にも取り入れているため、岩見沢校の理科専攻生は全員「ビーチコーミング」という用語を知っている。漂着物学会会長の石井 忠氏も本書の書評として「ビーチコーミングとは、海岸を歩いて漂着物をさがすことです。最果ての北の海、黒潮の果て北海道の漂着物が、はじめて明らかになりました。博物学者の眼差しと、詩人の感性が一体となって、優しく、平易で、どの頁からも、漂着物たちが踊り出し、北の海を語りはじめます。」という文書を寄せている。

本書は、漂着物の写真とその解説を集めた学術的資料集というものではなく、いわばフィールドガイドのように仕上がっており、この本を手を実際の浜辺を歩くことで、よりいっそう漂着物から

ただよってくる不思議な“かおり”を堪能できるようになっている。私も、この本を手にしてから、「ビーチコーミングはほとんど道具や準備が必要なく、自分の気持ちしだいでいかようにでも充実度を増すことが期待されるすばらしい体験学習メソッドである」ということに気づかれた。また、本書は体験学習のテキストとしても完成度の高いものと思われるので、来シーズンからはぜひこの本を手にした実践に取り組みたいと楽しみにしている。このように、資料的にもすばらしい本書を作られた鈴木氏に感謝すると共に、ぜひ皆さんにも手にとってごらんいただきたいと思う。

(のうじょうあゆむ)





学生に薦める1冊の本

『見てから読むか、読んでから見るか』

前 田 賢 次

（岩見沢校・教育方法学）

ここで紹介する書籍は『じゃあ、またあした。熱血・山田先生の分校物語』（共同文化社、1999年9月、409頁）です。実はこの本、図書館報に掲載する紹介としては異例の漫画です。原作者は北海道の留萌管内で長く教職につかれていた山田貞男さんです。山田さんは1944年、旧制商業学校を卒業後、地域に請われて分校の小学生たちの教師になります。今日、教師の力量形成や資質向上が要求され、授業や生活指導に対応できる教師が求められていますが、私にはそこにはもっと根本的な教師としての眼差しが欠けているように思えてなりません。本書に描かれた、教員養成教育の素養すら持たない若者が、子どもたちや地域と格

闘する中で教師として育っていく姿からは、時代を超えて、現代の教師や大人たちが学ぶべきことがたくさんあるように思えます。本書の原作は、山田貞男・著『先生にさわっちゃった ある日教室の片隅で…こんな小さなふれ合いですが』（自費出版、1986.11、375頁）で、北海道教育大の全ての附属図書館にあります。活字が苦手な人は漫画から、もっと学びたい人は原作を、また原作を読んでから、漫画を試してみるのもいいかもしれませんね。

（まえだけんじ）



※ 本稿で紹介している図書の原作『先生にさわっちゃった：ある日教室の片隅で…こんな小さなふれ合いですが』（山田貞男著、1986.11、375頁）の所蔵情報です。

館 名	所在（図書の配架場所）	請求記号（背ラベル）	資料 I D
札 幌 館	図・一般図書（3 F）	370.4/Ya	012012992
函 館 館	図書館	370.4/Y19	212008989
	書庫（電動）図書	370.4/Y19	212999460
旭 川 館	図・開架3 F（一般図書）	370.4/YA	412999729
釧 路 館	図書館 和図書3 F	370.4/YA	612019533
岩 見 沢 館	図書館開架	370.4/Ya	811094879

平成18年度 教職フィルムライブラリー新収ソフト一覧

これらのビデオ・DVD等のソフトは、館外貸出はできません。館内備え付けの機器でご視聴ください。
なお、昭和60年度以降の一覧は図書館ホームページに掲載していますのでご覧ください。

請求記号	タ イ ト ル	出版社	資料種別	所蔵館
210.3/Ho	木簡が語る古代社会 (放送大学ビデオ教材)	放送大学教育振興会	VTR	札 幌
375/KO/	TOEI VIDEO・こんな時どうする? : シリーズ3作品 1 危険から身を守る 2 人とかかわり 3 ルールとマナー	東映教育映像部	VTR	釧 路
430.8/Ka/	Gemco video library. 化学アニメーションシリーズ 1 原子軌道 2 結晶 3 ディールス・アルダー反応 4 求核置換 5 立体化学 6 原子価殻電子対反発理論 7 分子軌道 8 周期傾向	ジェムコ出版	VTR	札 幌
445/FE	Blue planet : 碧い惑星の神秘に迫る	ワーナー・ホーム・ビデオ(発売)	DVD	釧 路
453.8/LO	海底火山の謎	アイ・ヴィー・シー(発売)	DVD	釧 路
453.8/NH	スーパーボルケーノ	NHK エンタープライズ	DVD	釧 路
457.89/NH/	NHK スペシャル. 恐竜 VS ほ乳類 : 1億5千万年の戦い 1 巨大恐竜 繁栄のかげで 2 迫りくる羽毛恐竜の脅威	NHK エンタープライズ	DVD	釧 路
490.15/TO	生命・医療倫理学入門 全16巻 1 イントロダクション 生命・医療倫理学とは 倫理学の基礎1)倫理的問題を合理的に考えるために 2 倫理学の基礎2)倫理学の諸理論 医療倫理の原則と重要概念 3 法の基礎 4 守秘義務と個人情報保護(1)倫理的側面 守秘義務と個人情報保護(2)法的側面 5 医療従事者・患者関係 ケアの倫理 6 インフォームド・コンセント(1)総論 インフォームド・コンセント(2)同意能力のない患者の場合 7 臨床症例の倫理的検討法	丸善	DVD	旭 川

	8 生殖医療(1)人工妊娠中絶の倫理的問題 生殖医療(2)生殖補助医療の倫理的問題 9 新遺伝学 クローニング 10 医療資源の配分 11 終末期医療における倫理 終末期医療における法 12 脳死・臓器移植 13 リスクマネジメント：医療事故と法・倫理 14 演習(1)模擬倫理委員会：臨床研究 研究倫理の最近の動向 生命・医療倫理の法とガイドライン デモンストレーション 15 演習(2)模擬倫理委員会：ヒトゲノム・遺伝子解析研究 ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理審査 ヒトゲノム・遺伝子解析研究の科学審査 デモンストレーション 16 演習(3)模擬倫理コンサルテーション：終末期医療 倫理コンサルテーション デモンストレーション			旭 川
493.7/Ko/8	強迫性障害 日本語ナレーション版 (医学映像教育センター海外版シリーズ. 心のトラブル: vol. 8. Trouble in mind)	医学映像教育センター	VTR	札 幌
493.7/Ko/9	パニック障害 日本語ナレーション版 (医学映像教育センター海外版シリーズ. 心のトラブル: vol. 9. Trouble in mind)	医学映像教育センター	VTR	札 幌
702.098/KO12/1	小林玲子の絵解き釈迦涅槃図 (絵解きシリーズ)	方丈堂出版	VTR	函 館
702.098/KO12/3	竹澤繁子の絵解き荳蔻親子地藏尊縁起荳蔻道心と石童丸 3 (絵解きシリーズ)	方丈堂出版	VTR	函 館
706.9/VA/	The Vatican Museums : ヴァチカン美術館 1 ヴァチカン美術館：歴史・芸術・人々 The Vatican Museums : History, Art Works & Personalities 2 古代ローマ美術とエトルリア美術館 Roman & Etruscan Art In The Vatican Museums 3 古代ギリシャ美術とエジプト美術館 Greek & Egyptian Art In The Vatican Museums 4 初期キリスト教美術とシステーナ礼拝堂 The Origins of Christian Art & The Sistine Chapel 5 ラファエッロのスタンツェ & ロッジアと歴史博物館 The Raphael Rooms, The Loggia & The Historical Museum At St.John Lateran 6 伝道民族博物館と絵画館 The Ethnological Museum & The Picture Gallery 7 現代宗教美術コレクションと教皇宮殿	ボルテックス (発売)	DVD	釧 路

	The Collection of Modern Religious Art & The Apostolic Palace 8 サン・ピエトロ大聖堂とヴァチカン市国 Vatican City & The Great Basilica			銅 路
762.346/C76/	Man and music. Classical Vienna : ウィーンと作曲家たち 1 Music of an empire : ハプスブルク家の興隆 2 Mozart : dropping the patron : 音楽家モーツァルト 3 Mozart : a genius in his time : 天才モーツァルト 4 Beethoven : the age of revolution : 革命時代のベートーヴェン 5 Beethoven : the artist as hero : ベートーヴェン : 英雄的生涯 6 Schubert : the young romantic : ロマン派シューベルトの青春	Granada LWT International/Global Linkage [distributor]	VTR	函 館
764.31/Sc	シューベルト : 交響曲第9番ハ長調 D.944 「ザ・グレート」 (Unitel classica)	ニホンモニター・ドリームライフ事業部	DVD	札 幌
764.31/St	シュトラウス : 交響詩ドン・ファン作品20 (Unitel classica)	ニホンモニター・ドリームライフ事業部	DVD	札 幌
778.7/Ha	炭鉱 (ヤマ) に生きる	Montage	DVD	札 幌
778.77/00/	大藤信郎賞 : 毎日映画コンクール : 受賞短編アニメーション全集 1 ある街角の物語 / 手塚治虫監督 殺人 MURDER / 和田誠監督 2 人間動物園、椅子、LOVE、アオス / 久里洋二監督 展覧会の絵 / 手塚治虫監督 3 ふしぎなくすり / 岡本忠成監督 二匹のサンマ、部屋 The room / 久里洋二監督 やさしいライオン / やなせたかし監督 4 みにくいあひるの子 / 渡辺和彦監督 花ともぐら、ホーム・マイホーム / 岡本忠成監督 てんまのとらやん / 河野秋和、中村武雄監督 5 鬼 / 川本喜八郎監督、南無—— 病息災 / 岡本忠成監督 詩人の生涯 / 川本喜八郎監督、水のたね / 岡本忠成監督 6 道成寺 / 川本喜八郎監督、虹に向って / 岡本忠成監督 スピード / 古川タク監督、おこんじょうり / 岡本忠成監督 7 森の伝説 / 手塚治虫監督 いばら姫またはねむり姫 / 川本喜八郎監督 注文の多い料理店 / 岡本忠成監督 8 銀河の魚 / たむらしげる監督、るすばん / 長崎希監督 くじら、幽霊船 / 大藤信郎監督	映像文化製作者連盟 /IMAGICA (発売) /紀伊國屋書店 (販売)	DVD	岩 見 沢
785.2/SH/	新・楽しい水泳シリーズ 1 クロールを始めよう 2 平泳ぎを始めよう 3 クロールのじょうずな泳ぎ方 4 平泳ぎのじょうずな泳ぎ方	学研	VTR	旭 川
811.2/Ho	漢字のあゆみとしくみ (放送大学ビデオ教材)	放送大学教育振興会	VTR	札 幌

ありがとうございました～教職員著作物受贈一覧～

受贈：平成19年2月9日現在 (敬称略、五十音順)

受贈館略号 (札) 附属図書館札幌館 (函) 附属図書館函館館 (旭) 附属図書館旭川館
(釧) 附属図書館釧路館 (岩) 附属図書館岩見沢館

◎栗野 正紀

- ・自治体から創る特別支援教育

渡部昭男, 新井英靖編著, かもがわ出版, 2006.12, 200p 注: 執筆者共著 (札)

◎井筒 勝信

- ・I/YAY-PAKASNU : アイヌ語の学習と教育のために

井筒勝信編, 北海道教育大学教育学部旭川校, 2006.3, 449p (札, 旭)

◎井上 平治

- ・道南地域の青年学校と技術教育

井上平治編著, 学文社, 2006.10, 190p (札, 函, 旭, 釧, 岩)

◎今泉 博

- ・不登校からの旅立ち

今泉博著, 旬報社, 2006.4, 215p (釧)

◎大津 和子

- ・社会科的使命と魅力：日本社会科教育文选 (世界课程与教学新理论文库) 〈she hui ke de shi ming yu mei li : ri ben she hui ke jiao yu wen xuan〉

(日)市川博著, 沈晓敏主译, 北京: 教育科学出版社, 2006.4, 462p 注: 執筆者共著 (札)

◎大森 亨

- ・小学校環境教育実践試論

大森亨著, 創風社, 2004.5, 162p (釧)

- ・環境学習をはじめよう

大森亨著, ルック, 2005.3, 183p (釧)

- ・野生生物保全教育入門

- 小原秀雄[ほか] 著, 少年写真新聞社, 2006.7, 247p 注: 執筆者共著 (釧)
- ・教育基本法と科学教育
日本科学者会議教育基本法と科学教育研究委員会, 2004.3, 183p 注: 執筆者共著 (釧)
- ・21世紀の環境教育
大森亨, 伊藤幸男著, ルック, 2006.9, 144p (釧)

◎角 一典

- ・ごみ問題を考えるⅢ: 生ごみ処理の歴史・現状・課題 (北海道教育大学旭川校社会学研究室調査報告; vol.3)
北海道教育大学旭川校社会学研究室, 2006.1, 155p (札, 旭)

◎鎌田 浩子

- ・家政学実習: 新版 (介護福祉士選書; 11)
村山篤子, 鎌田浩子著, 建帛社, 2005.11, 213p (釧)

◎北澤 一利

- ・「健康」の日本史
北澤一利著, 平凡社, 2000, 235p (岩)
- ・近代日本の身体感覚 (平凡社新書; 068)
北澤一利[ほか]編著, 青弓社, 2004.8, 420p (岩)
- ・健康ブームを読み解く (青弓社ライブラリー: 30)
野村一夫[ほか]著, 青弓社, 2003.7, 229p 注: 執筆者共著 (岩)

◎後藤 泰宏

- ・ミラー対称性を持つ3次元カラビ-ヤウ多様体の数論
科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究C, 2006.5, 1冊, 課題番号15540001 (函)

◎今 尚之

- ・おたる案内人: 小樽観光大学校認定検定試験公式テキストブック
小樽観光大学校運営委員会編, 小樽観光大学校, 2006.11, 294p 注: 執筆者共著 (札, 函, 旭, 釧)

◎相馬 一彦

- ・ 科学技術リテラシーに関する基礎文献・先行研究に関する調査：報告書
長崎栄三 (サブテーマ研究代表), 2006.3, 401p 注：執筆者共著 (旭)

◎玉井 康之

- ・ 子どもと地域の未来をひらくへき地・小規模校教育の可能性
玉井康之編著, 教育新聞社, 2006.4, 150p (札, 函, 旭, 釧, 岩)
- ・ こんなとき, こう臨む教員評価・人材育成
佐竹勝利編, 教育開発研究所, 2006.7, 223p 注：執筆者共著 (釧)
- ・ 子どもの学力, 社会力, 体力をつくる小, 中学校の“土曜スクール”の展開
高階玲治編, 教育開発研究所, 2006.8, 212p 注：執筆者共著 (釧)
- ・ 小学校教科担任制の効果的な進め方
高階玲治編, 教育開発研究所, 2006.10, 215p 注：執筆者共著 (釧)
- ・ 子どもの人間力を育てる学校改善マネジメント：その方策と実践
八尾坂修編, 教育開発研究所, 2006.12, 229p 注：執筆者共著 (釧)

◎戸田須恵子

- ・ 遊びがひらく想像力：創造的人間への道筋
D.G.シンガー, J.L.シンガー著；高橋たまき[ほか]訳, 新曜社, 1997.4, 431p
注：共訳者 (釧)

◎馬場 俊臣

- ・ 日本語の文連接表現：指示・接続・反復
馬場俊臣著, おうふう, 2006.10, 251p (札)

◎氷見山幸夫

- ・ China-Japan comparative study of land use/cover changes 5=日本と中国の土地利用・土地被覆変化に関する地域間比較研究 (V)
科学研究費補助金成果報告書, 基盤研究 S, 2006.3, 202p, 課題番号13851003
(札, 函, 旭, 釧, 岩)

◎前田 賢次

- ・北海道と大分県を中心とした魚附林の歴史と現況に関する環境・総合学習教材の開発

科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究 C, 2006.3, 95p, 課題番号15500571

注: 研究分担者. (札)

◎三橋 功一

- ・子どもに向きあう授業づくり: 授業の設計, 展開から評価まで (図でわかる教職スキルアップ; 1)

生田孝至編集, 図書文化社, 2006.11, 179p 注: 執筆者共著 (札, 函, 旭, 釧)

◎宮崎 正勝

- ・世界史図解: 早わかり世界史

宮崎正勝著, 商周出版, 2006.6, 341p (釧)

- ・従地圖與地名看世界歴史

宮崎正勝著, 世潮出版, 2006.7, 293p (釧)

- ・知っておきたい「食」の世界史

宮崎正勝著, 角川書店, 2006.10, 238p (釧)

◎森永 正治

- ・ミスター・ベアの附小留学記

森永正治著, 総北海 (印刷), 2005.6, 198p (札)



附属図書館からのお知らせ

全 館 <http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/>

・ CiNii (論文情報ナビゲータ：国立情報学研究所) の検索結果から OPAC (本学蔵書目録) へのリンク機能を設定しました。所蔵確認にご利用ください。

札 幌 館 <http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/top.html>

〒002-8503 札幌市北区あいの里5条3丁目1-6 TEL 011-778-0288

・ 図書館の基本的な利用方法、文献検索のためのデータベース・電子ジャーナルの使用法の習得を目的としたガイダンスを実施しています。個人やゼミ単位等での参加をお待ちしています。また、授業の1コマをお借りして図書館見学ツアー、各種データベース紹介・実習等を行うことも可能です。お気軽にお問い合わせください。

函 館 館 <http://www.h-lib.hak.hokkyodai.ac.jp/>

〒040-8567 函館市八幡町1-2 TEL 0138-44-4231 (発信専用：0138-44-4399)

・ 図書館では「～について書いてある本が見たい」「授業・レポートで使う資料の探し方がわからない」等の情報探索のお手伝いをする各種説明・講習会等をご用意しております。カウンターまでお気軽にご相談ください。

旭 川 館 <http://www.asa.hokkyodai.ac.jp/office/tosho/>

〒070-8621 旭川市北門町9丁目 TEL 0166-59-1235

・ 校舎改修工事に伴い、閲覧席が新しくなりました。
新しい閲覧席は空調も完備されており、夏でも快適に過ごしていただけますのでどうぞご利用ください。

釧 路 館 <http://www.kus.hokkyodai.ac.jp/users/library/>

〒085-8580 釧路市城山1丁目15-55 TEL 0154-44-3243

・ 図書館では館内のフリースペースを貸出して、学生さんたちの作品発表の場として活用してもらうサービスを始めました。これまで、第1回目の写真展・第2回目のイラスト展と好評のうちに終了しました。今後もさまざまな企画をお待ちしています。
ぜひご利用ください。

岩 見 沢 館 <http://www.iwa.hokkyodai.ac.jp/~tosho/>

〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1 TEL 0126-32-3240

・ 図書館では各種講習会を用意しています。
・ OPAC とマイライブラリ講習会
・ CiNii とマイライブラリ講習会
個人からでも受付しています。希望される方はカウンターまでお申し込みください。